

令和元年度 第3回 庄内支部勉強会 活動報告

『一症例検討会』左中大脳動脈領域の脳梗塞を呈した症例（急性期～回復期）

日時：令和元年7月24日(水)18:30～20:30

会場：日本海酒田リハビリテーション病院

令和元年度庄内支部の第3回勉強会には、39名の参加がありました。演者は、急性期について日本海総合病院の佐藤里乃先生（当日は長岡孝則先生が代理で報告）、回復期について日本海酒田リハビリテーション病院の久村茉央先生より、症例の報告をいただきました。

はじめに、各先生より一般情報、理学療法評価、問題点、治療と経過等について、動画も交え提示いただきました。次に、質疑応答を挟み、6つに分かれてのグループディスカッションに移りました。テーマとしては、①患者の潜在性や「良い所」に気づくために、どのような評価方法があるか？ ②急性期で目標ADL（1つとして、トイレ動作監視レベル）まで向上しなかった要因は何か？ ③あと1ヶ月で独歩自立を達成するために必要な評価と治療は？ の3つを取り上げ、グループ毎に発表していただきました。最後に、演者の先生よりコメントいただきました。

ディスカッションでは、具体的な評価や治療プログラムの案、退院後の生活に向けて確認すべき事項など、さまざまな意見や提案がありました。事前の準備は大変だったと思いますが、演者の先生方にとっても多くのヒントが得られたことと思います。次回予定の生活期からの報告で、本症例のどんな生活ぶりが見られるのか楽しみです。

臨床上の疑問「クリニカルクエスション」は、定式化→文献検索→批判的吟味→適用の検討と進めることが重要であり、安全で効果的な理学療法の実践に繋がります（日本理学療法士学会HPのEBPT用語集より）。そこまで至らなくとも、ふとした疑問や困っていることについて、庄内各施設のスタッフと気軽に意見交換できるのが支部活動の「良い所」ですので、同僚に限らず身近な会員にぜひ勉強会への参加を呼びかけていただければと思います。

（文責：中西 智）



